



箱根の自然

科学技術の発展にどうもなって  
目に見える物質文明は、あらゆる  
資源や自然を開発しながら私  
たちの生活を便利にしてしまし  
た。人類の繁栄の中、大きな  
犠牲を地球に与えてきたことも  
確かです。21世紀を迎えた今、  
人類も地球家族の仲間という認  
識が高まりつつあります。休日  
には緑の美しい公園や山々、海

箱根の四季

春 早川のマス解禁に始まり、黄色 シ



の長い穂を持つキジシの花が咲き始めるのが3月中頃。山桜が咲き、クヌギ、コナラ、イヌシテ等の新緑とともに足柄峠、金時山でも道沿いに黄色が目に着く。日瀬まりに、春一番に羽化したミヤマセリが羽を休める。仙石原の沼では、赤色付いたウグイの産卵が5月に見られる。

**夏** サンショバラが咲き、山腹に白く浮かび上がるよう咲くヤマボウシの花が咲き始めると初夏。登山鉄

道のアシサイが終わると盛夏を迎える。オオヨシキリ、オオルリと鳴き賑やかな声が響き渡る。希少なハコネアシナガコガネも顔を見せる。

**秋** 明星ヶ岳の大文字焼が終わる頃、ハコネグイクが涼風を誘ってくる。サギソウ、オミナエシが初秋を彩る。仙石原のススキの見ごろは10月初め。草原ではカンタンの鳴き声が。10月下旬から神山、冠ヶ岳、金時山が紅葉のシーズンを迎える。見ごろは週ごとに山を下り始める。イノシシが闊歩するのもこのころだ。

**冬** 晩秋には枝から下がったマユミの橙色の実が鳥を誘う。嚴寒期には氷点下10度も仙石原の高原では珍しくない。芦ノ湖には多くのカモ類が飛来する。立春過ぎ、ミツマタの仲間であるオニバシリの花が姿を見



足跡を雪原で  
見かけるのも  
この頃である。

植物。7月に木栓程の大きさの白い花をつける。中央火口丘の下二子山の山頂の岩場にへばりついて厳しい自然環境の中で約20年程かけて1cm程の太さにしか成長しない。昭和40年頃、山野草愛好家に掘り出され絶滅の危機に瀕しました。「ハコネコメツツジを山に返そう」という運動から、「箱根を守る会」が誕生

#### 平洋側の暗い落葉樹林のトヤスキ 枝井下に繁殖

10



その他にヒメベッコウガイ、細長い形をしたハコネキセルガイなども見られます。

た杉の木の時代考証を行なったところ、湖底に水没したのは約1600年程前という結果が出てきました。この結果、芦ノ湖が誕生した後に、杉の林が湖底に沈んでいったことが確

杉の木の時代考証を行なったところ、湖底に水没したのは約 1600 年前という結果が出てきました。この結果、芦ノ湖が誕生した後に、杉の木が湖底に沈んでいったことが確かにならなかったのです。

湖底誕生以来、伊豆箱根地方は、約 100 年間隔で巨大地震が発生しておき、山間部では広域に渡って大きな地すべりが発生しています。芦ノ湖の湖岸に面した急斜面では大きな山崩れが発生し、林が根こそぎそのまま移動し湖底に沈んだことが推測できます。逆さ杉の埋没年代を広域にして測定すれば巨大地震の発生時期がわかるわけです。これまでに、100 年前、1600 年前、2100 年前に巨大地震が箱根を地方を襲ったことがわかりました。